



パウロの矜持

～福音となったイエス～

2026・8・23

パウロのエフェソでの宣教

- 第二宣教旅行の帰り道に立ち寄る
 - 会堂で語ったが滞在時間は短かった
 - 「神の御心ならば、また戻って来ます」8:21
- 第三宣教旅行
 - 「パウロは、内陸の地方を通してエフェソに下って来て」19:1
- 「ティラノという人の講堂」で毎日論じる
 - 「パウロは…ティラノという人の講堂で毎日論じていた。このようなことが二年も続いたので、アジア州に住む者は、ユダヤ人であれギリシア人であれ、だれもが主の言葉を聞くことになった。」19:10

地図 23



エフェソ

第1次および
第2次伝道旅行の出発点

かつては、パウロがベッシヌス、アン
キラ、タヴィウムなどのガラテヤの町
々を訪れたと信じられていたが、現在
の学者たちはこれを疑問視している。

大
地

中

海
海

ユダヤ人祈禱師事件

- パウロによる目覚ましい奇跡
 - パウロの「手ぬぐいや前掛け」を病人に当てると癒され、悪霊は出て行った
- ユダヤ人祈禱師の試み
 - 「ユダヤ人祈禱師」らが悪霊に「パウロが宣べ伝えているイエスによって、お前たちに命じる」と言ってみた
 - 悪霊らが「イエスのことは知っている。パウロのこともよく知っている。だが、いったいお前たちは何者だ。」と言って彼らにとびかかりひどい目にあわせた
- このことが知れ渡り、証しとなった
 - 「このことがエフェソに住むユダヤ人やギリシア人すべてに知れ渡ったので、人々は皆恐れを抱き、主イエスの名は大いにあがめられるようになった。」19:17

アルテミス神殿模型職人事件

- アルテミス神

- 豊穡の女神でその神殿はパルテノン神殿の4倍もあり、多くの参詣人や観光客が訪れていた

- 神殿模型職人たちの不満

- 「あのパウロは『**手で造ったものなどは神ではない**』と言って」自分たちの商売の邪魔をしている

- 野外劇場での騒動

- 「彼らは、パウロの同行者であるマケドニア人ガイオとアリストタルコを捕らえ、一団となって野外劇場になだれ込んだ。」
- 町の書記官が群衆をなだめ事態を收拾した

第三宣教旅行の帰路(使徒20章)

- エフェソには立ち寄らずにエルサレムへ
 - 「パウロは、アジア州で時を費やさないように、エフェソには寄らないで航海することに決めていたからである。できれば五旬祭にはエルサレムに着いていたかったので、旅を急いだのである。」20:16
- エフェソの長老を呼び寄せて語る
 - 「パウロはミレトスからエフェソに人をやって、教会の長老たちを呼び寄せた。」20:17
 - ミレトスはエフェソから約60kmにある港町
 - エフェソには寄らなかったがどうしても話しておきたいことがあった

パウロの決意

- これから自分(パウロ)に起こること
 - 「ただ、投獄と苦難とがわたしを待ち受けている」23
 - 「あなたがたが皆もう二度とわたしの顔を見ることがないとわたしには分かっています。」25
- パウロの決意
 - 「しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、**主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しするという任務**を果たすことができさえすれば、**この命すら決して惜しいとは思いません。**」24
- やるべきことはやってきた
 - 「だれの血についても、わたしには責任がありません。」26

長老たちへの指示

- 予想される危険

- 「わたしが去った後に、**残忍な狼ども**があなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らすことが、わたしには分かっています。また、あなたがた自身の中からも、**邪説を唱えて**弟子たちを従わせようとする者が現れます。」29-30

- 長老たちの務め

- 「どうか、あなたがた自身と群れ全体とに**気を配ってください**。」28

- 「だから、わたしが三年間、あなたがた一人一人に**夜も昼も涙を流して教えてきた**ことを思い起こして、目を覚ましていなさい。」31

受けるより与える方が幸い

- 自分で働き、金品を要求したことはない
 - 「わたしは、他人の金銀や衣服をむさぼったことはありません。ご存じのとおり、わたしはこの手で、わたし自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。」33-34
- 主イエスの言葉を身をもって示すために
 - 「あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『**受けるよりは与える方が幸いである**』と言われた言葉を思い出すようにと、**わたしはいつも身をもって示してきました**。」35

パウロの矜持(誇り)

- 自分の命など惜しいと思わない！

- ・これから先、過酷な運命が待っている事が分かっているが、福音のためなら命さえ惜しくない

- やってきたことに後悔はない！

- ・自分がいなくなっても、3年間の教え(「神とその恵みの言葉」)があればエフェソ教会は大丈夫

- 生きざまにおいて恥じることはない！

- ・イエスの弟子として、自らもイエスの言葉を実践してきた。

『受けるよりは与える方が幸いである』